

「令和7年度 京都市立鷹峯小学校 学校経営の基本構想」

～学校教育目標の具現化を目指して～

学校教育目標

自ら感じ・考え・行動・協働し、学び合う鷹峯の子

- 自律・承認・創造 -

<育てたい資質・能力> 「対話」を通して……
自ら感じ・考え・表現したり、行動したりすること
自他のよさを認め、互いに学び合うこと
よりよい社会の創造に、挑戦しようとすること

子どもが「居たい」と思う学校
→人とのかかわり・学びがいっぱいある
「楽」「仲」「協」

保護者が「子どもを通させたい」と思う学校
→安心・安全で、子・個を大切にしてくれる

【目指す学校像】
鷹峯ファミリー（子ども・教職員・家庭・地域）、
全ての人が「鷹峯いいね！」と思える学校

教職員が「働きがいがある」と思う学校
→取り組んで良かったと感じることがある

地域が「応援したい」と思う学校
→感謝のおもいを伝えたり、気持ちのいい挨拶をしたりしてくれる

【目指す子ども像】 「対話」を通して……
人とのかかわり・学びを生かす子ども

学び方を学ぶ子
→義務教育9年間・15の出口を見据え、
学び方を知り、自らの学びを調整する
子ども（確かな学力）
・基礎・基本的な学習習慣、自学自習の
習慣を身につける子ども
・自分の考えを話したり、書いたりするこ
とができる子ども

やさしい子
→人を大切にし、 $1+\alpha$ の気遣いで共に
行動する子ども（豊かな心）
・人のおもいが分かり、やさしくするこ
とができる子ども
・自分からあいさつができる子ども
・自分たちのまち「鷹峯」に愛着をもち、誇
りに思うことができる子ども

元気な子
→自分の体を大切にし、健康でたくまし
く、元気に活動する子ども（健やかな
体）
・力いっぱい運動することができる子ども
・健康や安全に気をつけて生活するこ
とができる子ども
・規則正しい習慣で生活ができる子ども

【目指す子ども像の具現化に向けて、教職員が意識して取り組むこと（指導方針）】

- 小さな気づきを放っておらず、自分から積極的に話しかける
- 話しかけてきたり、そばにきたりする子どもに「どうしたの」と問いかける
- 期待の眼差しを向け、褒める指導・支援を意識する
- 子どものおもいを引き出し・受け入れ、じっくりと話を聞く
- 子どもの心に届く声かけをする
- 自己決定できるように問いかけて、考えさせる
- だれかのためにがんばれるようにする
- 安心できる居場所になる
- 常に人の存在や出会い、関わりを意識できるようにする
- 体験活動を取り入れ、経験を増やすようにする
- 自己を見つめ直す時間を持つようにする
- 失敗した時にどうすればいいのかを考える場を大切にする
- 何を学びたいのか、子どもたちのニーズを把握し、実践する
- 学びや成果に対する価値付けをする
- 命・安全の大切さを伝える

【目指す教職員像】

- 個が伸びれば組織が伸びる、組織が伸びれば個が伸びる
- ◇ $1+\alpha$ の気遣いで、素早く、親身になって動く教職員
- ◇共通理解し、実践し、やりきる教職員
- ◇笑顔があふれる、あたたかい教職員
- ◇子どもの満足度を引き出すことを考える教職員
- ◇傾聴し、おもい（主訴）をくみ取ることができる教職員
- ◇謙虚な姿勢で研鑽（真似る→学ぶ→創造する）を積み、自分を高
めようとする教職員
- ◇子どもと子ども、子どもと教職員、教職員と教職員をはじめ、人との
かかわり、人権意識、コミュニケーションを高めようとする教職員
- ◇目的・意図をもって実践する教職員
- ◇時間を大切にする教職員
- ◇学習環境をはじめ、環境整備をする教職員